

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
「持続可能な社会」論				矢口 芳生	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講 無
授業の概要(Course Description)					
<p>「持続可能性」・「永続可能性」・「持続可能な社会」という言葉は、一般的に定着し何気なく使われている。しかし、これらの言葉の意味するものは非常に奥深くかつ歴史ある大きな概念である。1970年代前半に世界の政治と経済が大きく転換するが、これと軌を一にして歴史上に現れる。以後、意味する内容や具体的な方策等が深められ、国際政治経済および地域社会を考える上での重要なキーワード・キーコンセプトとして今日に至っている。</p> <p>講義では、「持続可能な発展」理念、それに基づく地域社会の見方、「持続可能な社会」のあり方、理念の実践過程・歴史的展開過程、地域社会における理念の実現方法等について、テキスト『持続可能な社会論』を用いて講じる。</p>					
<p>世界・日本・地域の政治・経済・社会の状況を理解し、「持続可能な発展」理念を踏まえて、地域課題を改善・解決することに大きな関心をもつようにするため、次の2点を到達目標にする（基礎知識の獲得と応用）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本と世界の社会の状況を理解し、「持続可能な社会」に関する用語を用いて説明できるようにする。</li> <li>2. 「持続可能な発展」理念を理解し、地域社会のニーズを把握し、討議できるようにする。</li> </ol>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	オリエンテーション、「持続可能な発展」の理念				
第 2 回	「持続可能な発展」理念の展開過程				
第 3 回	「持続可能な社会」への条件				
第 4 回	「持続可能な社会」のデザイン				
第 5 回	〈小テスト〉				
第 6 回	持続可能性の確保の課題				
第 7 回	科学技術と経済の課題				
第 8 回	社会に不可欠な「持続可能な農林業」の課題				
第 9 回	生活の質の向上と格差の是正の課題				
第 10 回	〈小テスト〉				
第 11 回	パラダイム転換の意義				
第 12 回	「共生」理念の措定				
第 13 回	「共生」への契機				
第 14 回	共生社会システムの可視化と成立条件				
第 15 回	〈小テスト〉				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定したテキストは事前に必ず読んでおくこと。テキスト『持続可能な社会論』に注記した参考文献にも挑戦しよう。</li> <li>2. 自分の住んでいる地域やアルバイト先の人々と話す機会をつくり、様々な課題や問題の解決方向について考えてみよう。</li> </ol>					

評価方法 (割合)	評価基準
小テスト、第1・2回 各30点 第3回 40点 計100点 (100 %)	3回の〈小テスト〉を実施。 〈小テスト〉の評価基準は次のとおり。 秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 出欠は取りません。必修なので出席してください。少なくとも講義に3分の2以上は出席しよう。
テキスト (Textbook)	【書名】 『持続可能な社会論』 【著者】 矢口芳生 【出版社】 農林統計出版 【出版年】 2018年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	参考書や資料等は適宜講義で提示する。
備 考 (Other Information)	講義中にノートをとること。講義中の私語・飲食は慎むこと。 講義室で帽子はかぶらないこと。講義中に無断で退出しないこと。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡 もしくは在室時に直接面談。